

令和3年度対日理解促進交流プログラム
「カケハシ・プロジェクト」 (米国)

最終事業報告書

業務実施期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

令和4年5月31日

一般財団法人 日本国際協力センター

I 実施業務概要

1. 業務実施期間： 2021年4月1日～2022年3月31日
2. 実施業務項目
 - (1) 外務省及び国内外の関係機関との事業実施にかかる連絡調整、情報共有
 - (2) オンラインプログラムの企画・運営
 - オンラインプログラムの企画
 - バーチャルツアー、オンライン講義、オンライン学校交流等オンラインプログラムに係る手配、関係者との連絡調整
 - 参加者の募集、とりまとめ
 - Zoom Link の発行 参加者への送付
 - 関係者とのリハーサル
 - 個別の案件実施に係るプレスリリースの発出
 - オンラインプログラム当日のプログラム運営（プログラム進行統括、Zoom 操作、時間管理、出欠確認、司会進行、ファシリテーション等）
 - 通訳の手配
 - 講師との連絡調整（依頼状発出、謝金支払い等）
 - アンケートの実施、とりまとめ
 - 報告書の作成
 - オンラインプログラムに関する広報・フォローアップ管理業務 等
 - (3) 対面プログラムの企画・運営
 - 対面プログラムの企画
 - 対面ツアー、会場、飲食物等、対面プログラムに係る手配、関係者との連絡調整
 - 参加者の募集、とりまとめ
 - 参加者との連絡調整
 - エスコートの手配
 - プレスリリースの発出
 - 精算
 - アンケートの実施、とりまとめ
 - 報告書の作成
 - 対面プログラムに関する広報・フォローアップ管理業務 等
 - (4) 対面・オンラインハイブリッドプログラムの企画・運営
 - 対面・オンラインハイブリッドプログラムの企画

- 対面・オンラインハイブリッドプログラム係る手配、関係者との連絡調整
- 対面懇親会およびオンラインプログラム内容の企画
- 参加者名簿とりまとめ
- Zoom Link の発行 関係者への送付
- 関係者とのリハーサル
- プレスリリースの発出
- 懇親会費用清算
- アンケートの実施、とりまとめ
- 報告書の作成
- 対面・オンラインハイブリッドプログラムに関する広報・フォローアップ管理業務 等

(5) 上記諸手配に係る経費の支払い

(6) 業務完了報告書・会計報告書の作成、提出

II 業務実施状況

1. 概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」は、将来を担う人材を米国との間で招へい・派遣し、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、また日本の外交姿勢や魅力について被招へい者・被派遣者自らに積極的に発信してもらうことで対外発信力を強化し、我が国の外交基盤を拡充することを目的としている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、国境を越えた人の往来に制限がある中、当センターは、実際の招へい・派遣プログラムに代わるオンラインプログラムにおいて、プログラム目的にあった参加者の募集・選考、プログラムの企画・運営を担当し、オンラインでの講義、視察・意見交換、文化体験、学校交流等を通して、日本の魅力を米国の参加者へ紹介し、日米両国の相互理解、関係構築を推進すべく業務を実施した。今年度は、オンラインプログラムに加えて、1 件の対面プログラム（ニューヨークジャパン・ソサエティーでのプログラム）および、1 件の対面・オンラインハイブリッドプログラム（ワシントン D.C. ジョージワシントン大学でのプログラム）を実施することができた。

なお、別途提出済の状況進捗表の人数と、この最終報告書に記載の総計人数とは一致しない。（状況進捗表では、カケハシ同窓生がプレプログラムにも参加した場合、ダブルカウントしている。）

(1) 招へいプログラム（オンラインプレ招へい）

米国の高校生、大学生、大学院生、社会人 96 名に対し、オンラインによるプレ招へいプログラムを行った。2021 年度（令和 3 年度）予算によるオンラインプレ招へいプログラムの実施時期は 2021 年 12 月～2022 年 3 月。

タイトル	対象	米国人数	実施日	学校名／団体名
1. 沖縄プログラム（那覇国際高校、知念高校×ナナクリ高校）	高校生	20名	2021/12/05	ナナクリ高校
2. 沖縄プログラム（球陽高校×ブロードウォーター高校、リードポイント高校）	高校生	19名	2021/12/10	リードポイント高校、ブロードウォーター高
3. 沖縄プログラム（開邦高校×ホイトニー高校）	高校生	23名	2021/12/11	ホイトニー高校
4. イノウエ・プログラム（ノースイースタン州立大学×北海道大学）	大学生	22名	2022/02/10	ノースイースタン州立大学
5. イノウエ・プログラム（ノースイースタン州立大学）ウポポイ	大学生	12名	2022/03/08	ノースイースタン州立大学
	総計	96名		

(2) 派遣プログラム（オンラインプレ派遣）

日本の高校生、大学生、大学院生 104 名に対し、オンラインによるプレ派遣プログラムを行った。2021 年度（令和 3 年度）予算によるオンラインプレ派遣プログラムの実施時期は 2021 年 12 月～2022 年 2 月。

タイトル	対象	日本人数	実施日	学校名／団体名
1. 沖縄プログラム（那覇国際高校、知念高校×ナナクリ高校）	高校生	25名	2021/12/05	那覇国際高校、知念高校
2. 沖縄プログラム（球陽高校×ブロードウォーター高校、リードポイント高校）	高校生	20名	2021/12/10	球陽高校
3. 沖縄プログラム（開邦高校×ホイトニー高校）	高校生	22名	2021/12/11	開邦高校
4. イノウエ・プログラム（ノースイースタン州立大学×北海道大学）	大学生 大学院生	17名	2022/02/10	北海道大学
5. 「アメリカで沖縄の未来を考える（TOFU）」プログ	高校生 大学生	20名	2022/03/23	

ラム（東京派遣プログラム）				
	総計	104名		

(3) フォローアッププログラム（オンライン FU）

米国、日本の高校生、大学生、大学院生、社会人 172 名に対し、オンラインによるフォローアッププログラムを行った。2021 年度（令和 3 年度）予算によるオンラインフォローアッププログラムの実施時期は 2022 年 1 月～2022 年 3 月。

タイトル	対象	米国・日本人 数	実施日	学校名/団体名
1. 全米日系人博物館バーチャルツアー	高校生 大学生 大学院生 社会人	32 名 (米国 17 名、 日本 15 名)	2022/01/22	
2. 日本在住同窓生向け同窓会	大学生 大学院生 社会人	6 名 (米国 6 名)	2022/01/22	
3. 被災地復興ワークショップ（南三陸）	高校生 大学生 大学院生 社会人	14 名 (米国 14 名)	2022/01/26	
4. 浮世絵工房バーチャルツアー	大学生 大学院生 社会人	27 名 (米国 27 名)	2022/02/04	
5. 同窓生主催同窓会	高校生 大学生 大学院生 社会人	18 名 (米国 13 名、 日本 5 名)	2022/02/16	
6. カケハシから JET へ（JETAADC 共催ネットワーキングイベント）	大学生 社会人	13 名 (米国 13 名)	2022/02/26	
7. 法光寺 お寺ツアー・座禅体験	大学生 社会人	6 名 (米国 6 名)	2022/03/09	
8. 大阪の魅力発見バーチャルツアー	高校生 大学生 社会人	5 名 (米国 5 名)	2022/03/15	
9. マンスフィールド・フ	社会人	6 名	2022/03/17	

エローとのネットワーキング・イベント		(米国 6 名)		
10. 大須商店街バーチャルツアー	社会人	5 名 (米国 5 名)	2022/03/17	
11. 日本国際交流センター (JCIE) ウェビナー	大学生 大学院生 社会人	14 名 (米国 11 名、 日本 3 名)	2022/03/24	
12. おわら風の盆体験	大学生 大学院生 社会人	7 名 (米国 6 名、 日本 1 名)	2022/03/30	
13. 有松鳴海絞り体験	高校生 大学生 大学院生 社会人	19 名 (米国 19 名)	2022/03/31	
	総計	172 名 (米国 148 名、 日本 24 名)		

(4) 対面プログラム (米国ニューヨーク市で実施)

ニューヨーク近郊に住むカケハシ同窓生 9 名に対し、対面でのフォローアッププログラムを実施した。

タイトル	対象	米国人数	実施日	学校名/団体名
1. ジャパン・ソサエティー ギャラリーツアー・ 同窓会	大学生 大学院生 社会人	9 名	2022/03/14 (現地は 3/13)	ジャパン・ソサエティー
	総計	9 名		

(5) 対面・オンラインハイブリッドプログラム (米国ワシントン D.C. で実施)

ワシントン D.C. のジョージワシントンのカケハシ・プロジェクト同窓生 22 名に対し、対面とオンラインのハイブリッド形式のフォローアッププログラムを実施した。

タイトル	対象	米国人数	実施日	学校名/団体名
1. ジョージ・ワシントン大学 ネットワーキングイベント	大学生 大学院生 社会人	22 名	2020/03/23 (現地は 03/22)	ジョージ・ワシントン大学
	総計	22 名		

2. プログラム内容

(1) 招へいプログラム（オンラインプレ招へい）

オンラインプレ招へいプログラムでは、2021 年 12 月に実施した沖縄プログラムに始まり、様々なプログラムを実施した。カケハシ・イノウエ・プログラム、沖縄プログラムでは、相互交流校となっている高校または大学同士でバーチャルキャンパスツアーやグループ交流を行い、友好を深めた。いずれも、参加者の満足のいくように、インタラクティブな内容を含むプログラムであった。

(2) 派遣プログラム（オンラインプレ派遣）

オンラインプレ派遣プログラムでは、高校生派遣、イノウエ・プログラムにおいて、学校交流を行った。2022 年 3 月の TOFU プログラムでは、参加者は東京に来ることもかなわなかったが、昨年同様マーブルヒル高校と、沖縄の食や文化の紹介を含む、オンライン交流を行い、友好を深めた。いずれのプログラムでも、各自の学校の紹介や、日本文化の紹介などのプレゼンテーションを行い、参加者が積極的に質問する様子が見られ、互いの文化や歴史、ものの見方を知り友好を深める良い機会となった。

(3) フォローアッププログラム（オンライン FU）

オンラインフォローアッププログラムでは、同窓会実行委員会主催のプログラムのほかに、今年度は全カケハシ同窓生を対象として、多様なプログラムを提供した。全米日系人博物館バーチャルツアー、南三陸町被災地復興ツアー、浮世絵工房バーチャルツアー、マンスフィールド・フェローとのネットワーキングイベント、JETAADC との共同プログラム、座禅体験、大阪の魅力発見バーチャルツアー、大須商店街バーチャルツアー、有松鳴海絞体験など、いずれも好評を博した。

(4) 対面プログラム（米国ニューヨーク市で実施）

ニューヨークでは、新型コロナウイルス新規感染者数の減少により 2022 年 3 月 1 日から屋内でのマスクの着用は強制ではなくなったが、実施協力団体であるジャパン・ソサエティーの感染予防対策規定に従い、参加者はマスクを着用し、ワクチン接種済の証明書を持参したうえでプログラムに参加した。参加者は、館内の会議室で昼食をとるとともに、学芸員による棟方志功展ツアーを楽しんだ。

(5) 対面・オンラインハイブリッドプログラム（米国ワシントン D.C. で実施）

若手研究者招へいプログラムの常連校であるワシントン D.C. のジョージワシントン大学の協力のもと、同大学のカケハシ・プロジェクト同窓生を対象に、対面とオンラインのハイブリッドプログラムを実施した。対面の参加者は大学内の会議室で軽食をとるとし、米国各地からの参加者は、オンラインで、会議室内のスクリーン上で交流プログラムに参加した。カケハシ参加者によるカケハシの思い出やその後のキャリアに関する発表や、グループ交流を行った。

3. 参加者アンケート結果

(1) 招へいプログラム（オンラインプレ招へい）

オンラインプログラム実施後にプログラムに関するアンケートを実施した。結果、米国の参加者（学生/社会人、引率者を含む）のうち 55 の回答があった。

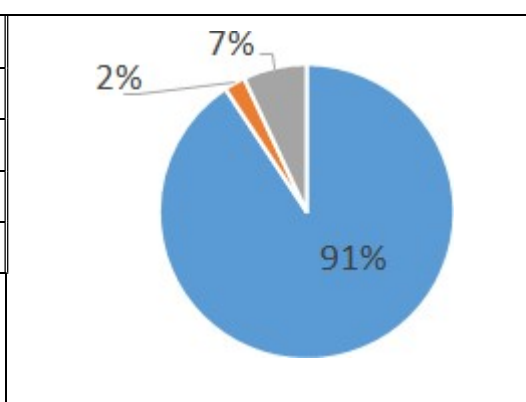
【学校交流後アンケート】

1.オンライン交流に関する意見

(1) コロナ禍下で渡航ができない中、オンラインで日本人や他の参加者と交流する機会は有効だと考えますか。

■ ア. はい ■ イ. いいえ ■ ウ. どちらでもない

	人数
ア. はい	39
イ. いいえ	1
ウ. どちらでもない	3
合計	43

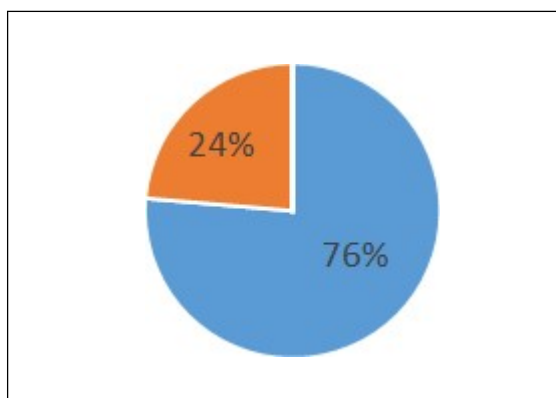


【プレ・プログラムについて】

(2) 今回のプレ・プログラムへの満足度を評価してください。

■ ア. 満足 ■ イ. ほぼ満足 ■ ウ. 普通
■ エ. やや不満 ■ オ. 不満

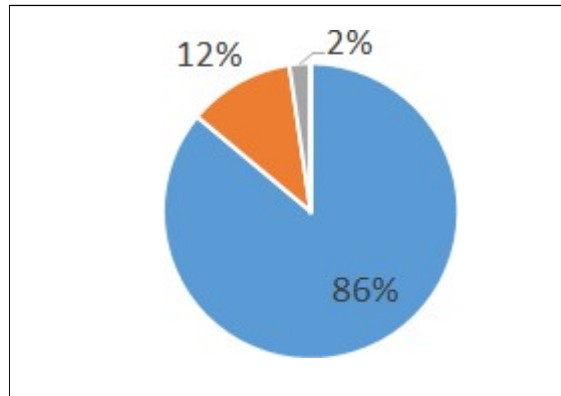
	人数
ア. 満足	42
イ. ほぼ満足	13
ウ. 普通	0
エ. やや不満	0
オ. 不満	0
合計	55



(3) プログラム内容は日本へ訪問する前の事前学習として役に立ちましたか？

- ア. 満足
- イ. ほぼ満足
- ウ. 普通
- エ. やや不満
- オ. 不満

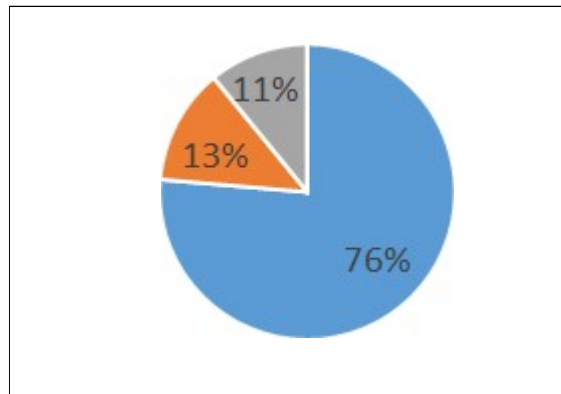
	人数
ア. 満足	37
イ. ほぼ満足	5
ウ. 普通	1
エ. やや不満	0
オ. 不満	0
合計	43



(4) プレ・プログラムに参加後、訪日への期待は高まりましたか。

- ア. 満足
- イ. ほぼ満足
- ウ. 普通
- エ. やや不満
- オ. 不満

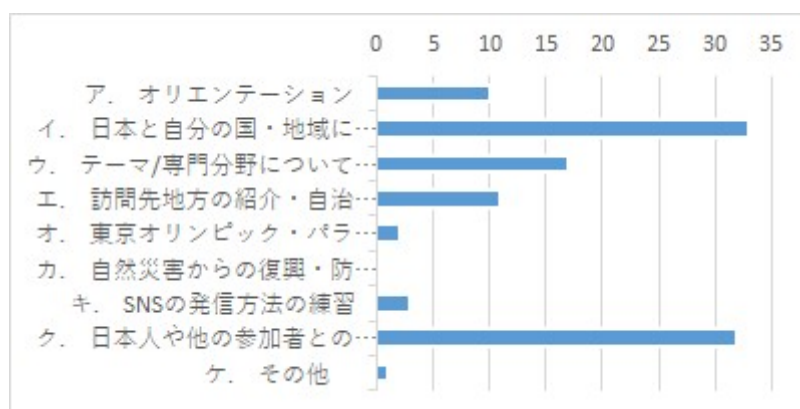
	人数
ア. 満足	42
イ. ほぼ満足	7
ウ. 普通	6
エ. やや不満	0
オ. 不満	0
合計	55



(5) 今回のプレ・プログラムで強く印象に残った内容は何ですか。(当てはまるものすべてに回答してください)

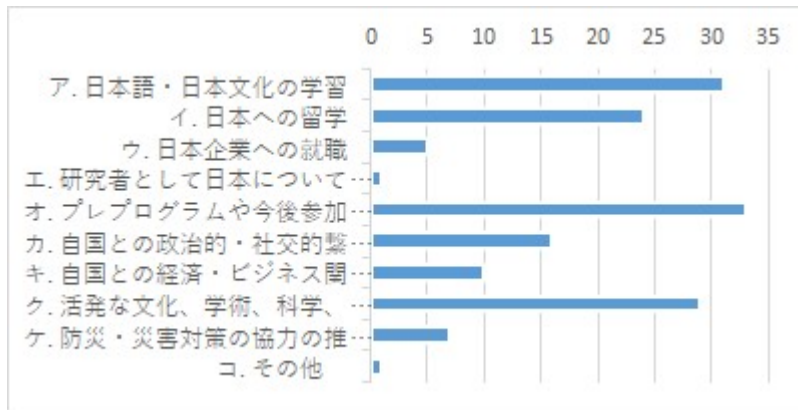
	人数
ア. オリエンテーション	10
イ. 日本と自分の国・地域についての講義・意見交換	33
ウ. テーマ/専門分野についての講義・意見交換・オンライン視察	17
エ. 訪問先地方の紹介・自治体表敬・オンライン訪問	11
オ. 東京オリンピック・パラリンピック関連情報	2
カ. 自然災害からの復興・防災対策	0
キ. SNS の発信方法の練習	3
ク. 日本人や他の参加者との意見交換・交流	32

ケ. その他	1
合計	109



(6) 現時点で、日本との関わりについて、関心があるものは何ですか。(複数選択可)

	人数
ア. 日本語・日本文化の学習	31
イ. 日本への留学	24
ウ. 日本企業への就職	5
エ. 研究者として日本について専攻	1
オ. プレ・プログラムや今後参加予定の訪問先で出会った人との繋がりを維持・強化	33
カ. 自国との政治的・社会的繋がりの強化に関する活動への参加	16
キ. 自国との経済・ビジネス関係の強化に関する活動への参加	10
ク. 活発な文化、学術、科学、スポーツ等の交流の推進に関する活動への参加	29
ケ. 防災・災害対策の協力の推進に関する活動への参加	7
コ. その他	1
合計	157



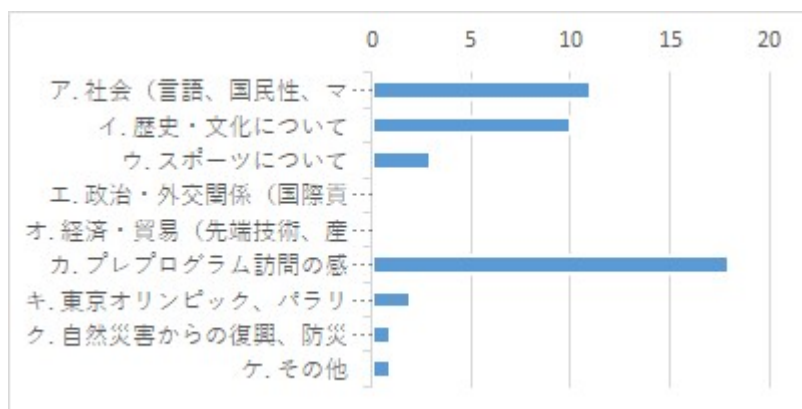
(7) 現時点で、将来、日本との関係を個人的にどのように発展させたいと考えていますか。(複数選択可)

	人数
ア. プレ・プログラムや訪問予定地で出会った人との繋がりを維持・強化	36
イ. 自国との政治的・社会的繋りの強化に関する活動への参加	14
ウ. 自国との経済・ビジネス関係の強化に関する活動への参加	10
エ. 活発な文化、学術、科学、スポーツ等の交流の推進に関する活動への参加	29
オ. 防災・災害対策の協力の推進に関する活動への参加	11
カ. その他	0
合計	100



(8) 日本の何に関心を持ち、発信しましたか。(複数選択可)

	人数
ア. 社会（言語、国民性、マナー）について	11
イ. 歴史・文化について	10
ウ. スポーツについて	3
エ. 政治・外交関係（国際貢献・安全保障等）について	0
オ. 経済・貿易（先端技術、産業、商品・サービス等）について	0
カ. プレ・プログラム訪問の感想・訪日時の展望	18
キ. 東京オリンピック、パラリンピック関連情報	2
ク. 自然災害からの復興、防災対策	1
ケ. その他	1
合計	46



(2) 派遣プログラム（オンラインプレ派遣）

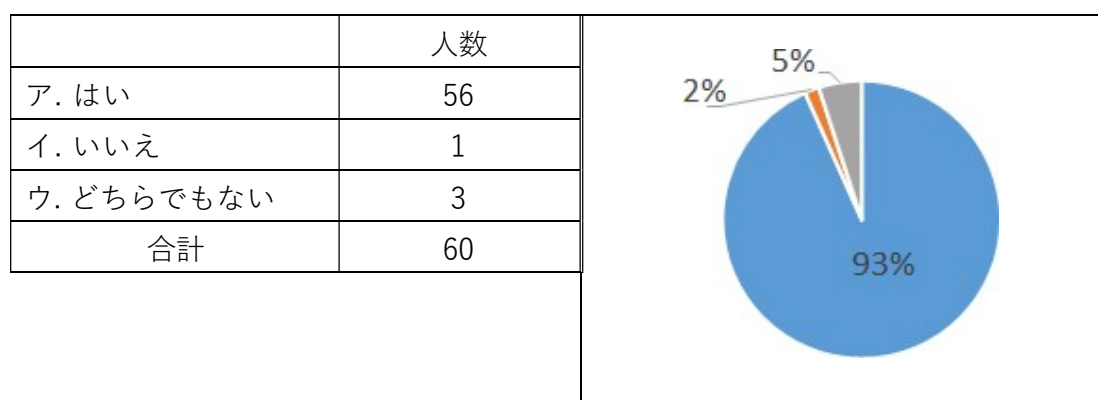
オンラインプログラム実施後にプログラムに関するアンケートを実施した。結果、日本の参加者（高校生、大学生、大学院生、専門学校生）のうち、60 の回答があった。

【学校交流後アンケート】

1.オンライン交流に関する意見

(1) コロナ禍で渡航ができない中、オンラインで海外の人と交流する機会は有効だと思いますか。

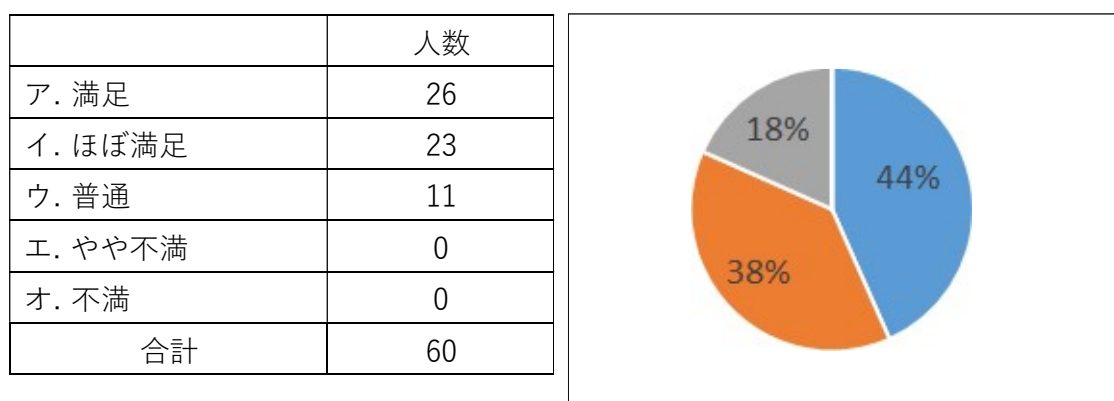
■ ア. はい ■ イ. いいえ ■ ウ. どちらでもない



【プレ・プログラムについて】

(2) プログラム内容は満足の内容でしたか。

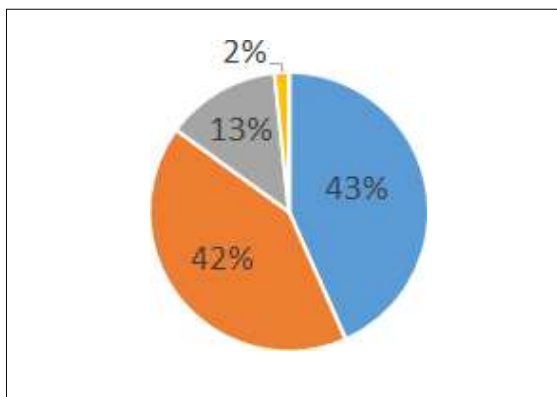
■ ア. 満足 ■ イ. ほぼ満足 ■ ウ. 普通
■ エ. やや不満 ■ オ. 不満



(3) プログラム内容は訪問予定地へ渡航する前の事前学習として役に立ちましたか。

- ア. 満足 ■ イ. ほぼ満足 ■ ウ. 普通
 ■ エ. やや不満 ■ オ. 不満

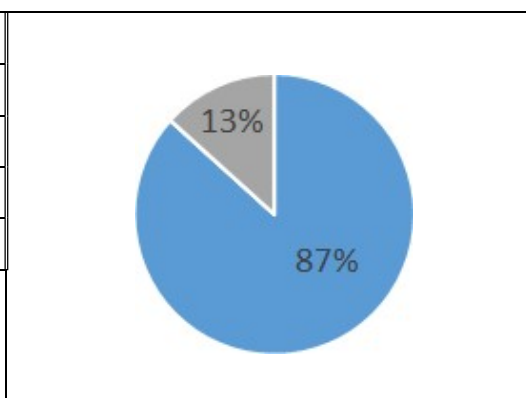
	人数
ア. 満足	26
イ. ほぼ満足	25
ウ. 普通	8
エ. やや不満	1
オ. 不満	0
合計	60



(4) 訪問予定地での日本の活動（国際貢献）やプレゼンスに対する理解が深まりましたか。

- ア. はい ■ イ. いいえ ■ ウ. どちらでもない

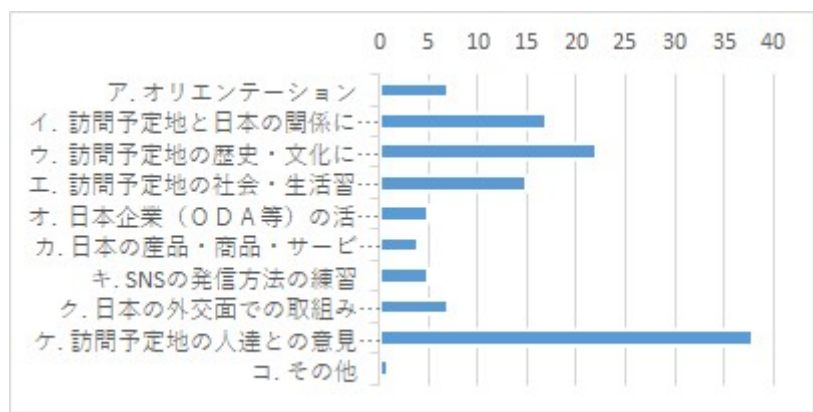
	人数
ア. はい	52
イ. いいえ	0
ウ. どちらでもない	8
合計	60



(5) 今回のプレ・プログラムで強く印象に残った内容は何ですか。（当てはまるものすべてに回答してください）

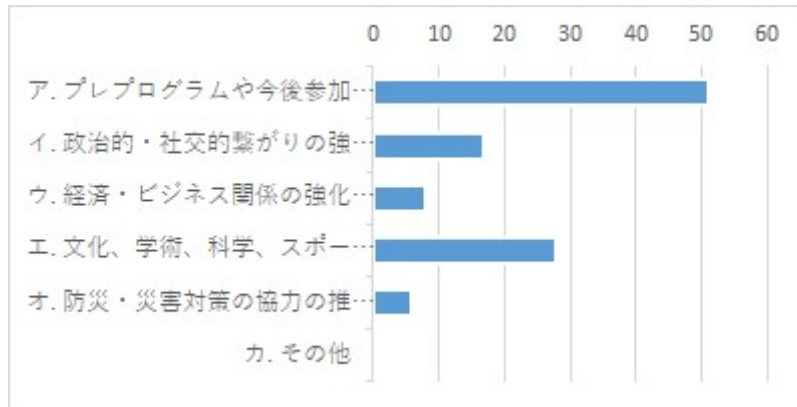
	人数
ア. オリエンテーション	7
イ. 訪問予定地と日本の関係についての講義・意見交換	17
ウ. 訪問予定地の歴史・文化についての講義・意見交換	22
エ. 訪問予定地の社会・生活習慣についての講義・意見交換	15
オ. 日本企業（ODA等）の活躍についての講義・意見交換	5

カ. 日本の産品・商品・サービスの優位性についての講義・意見交換	4
キ. SNSの発信方法の練習	5
ク. 日本の外交面での取組み（ODA・安全保障等）	7
ケ. 訪問予定地の人達との意見交換・交流	38
コ. その他	1
合計	121



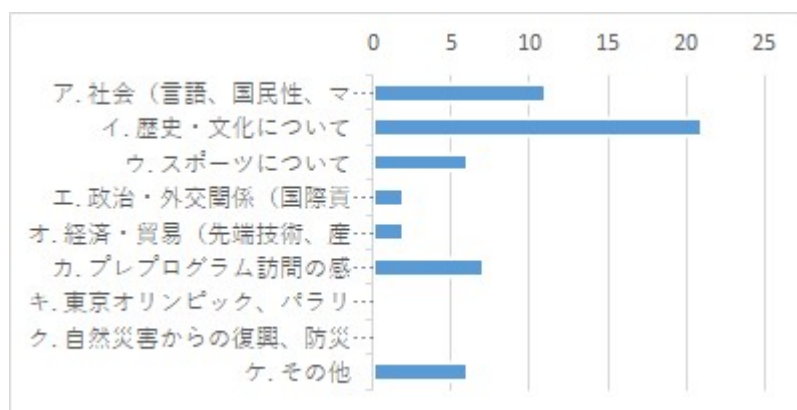
(6) 現時点で、今後、訪問地との関わりについて、どのように発展させていきたいと考えていますか。(複数回答可)

	人数
ア. プレ・プログラムや今後参加予定の訪問先で出会った人との繋がりを維持・強化	51
イ. 政治的・社会的繋がりの強化に関する活動への参加	17
ウ. 経済・ビジネス関係の強化に関する活動への参加	8
エ. 文化、学術、科学、スポーツ等の交流の推進に関する活動への参加	28
オ. 防災・災害対策の協力の推進に関する活動への参加	6
カ. その他	0
合計	110



(7) 英語または訪問地の言語で発信した内容は何ですか。(複数選択可)

	人数
ア. 社会（言語、国民性、マナー）について	11
イ. 歴史・文化について	21
ウ. スポーツについて	6
エ. 政治・外交関係（国際貢献・安全保障等）について	2
オ. 経済・貿易（先端技術、産業、商品・サービス等）について	2
カ. プレ・プログラム訪問の感想・訪日時の展望	7
キ. 東京オリンピック、パラリンピック関連情報	0
ク. 自然災害からの復興、防災対策	0
ケ. その他	6
合計	55



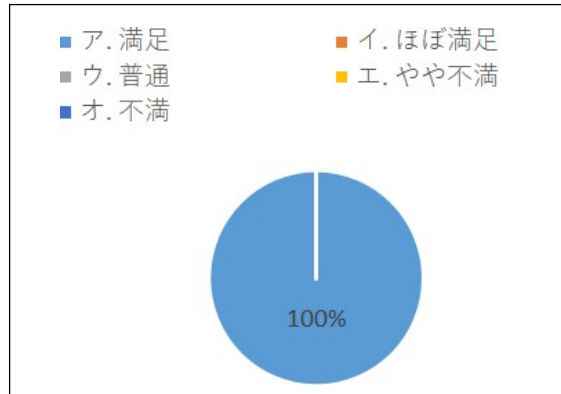
(3) フォローアッププログラム（オンライン FU)

オンラインプログラム実施後にプログラムに関するアンケートを実施した。結果、米国、カナダ、日本のフォローアップ参加者のうち、109 の回答があった。

【オンラインイベントについて】

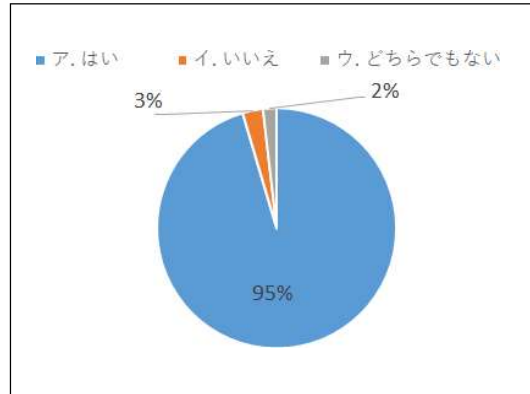
(1) オンライン同窓会をどのように評価しますか？

	人数
ア. 満足	109
イ. ほぼ満足	0
ウ. 普通	0
エ. やや不満	0
オ. 不満	0
合計	109



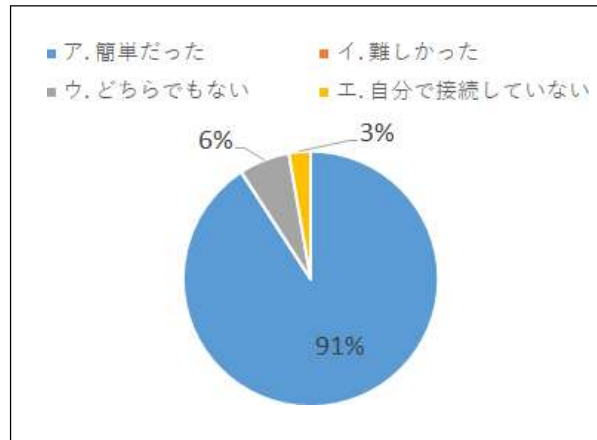
(2) コロナ禍で渡航ができない中、オンラインで日本人や他の参加者と交流する機会は有効だと考えますか。

	人数
ア. はい	104
イ. いいえ	3
ウ. どちらでもない	2
合計	109



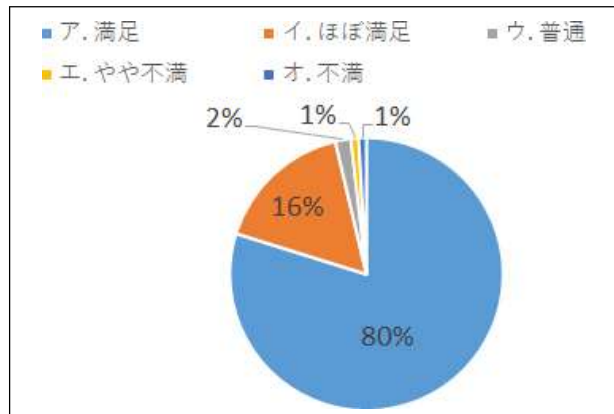
(3) オンライン交流プログラムを実施するにあたり、自分でオンラインの接続をすることは簡単でしたか。

	人数
ア. 簡単だった	99
イ. 難しかった	0
ウ. どちらでもない	7
エ. 自分で接続していない	3
合計	109



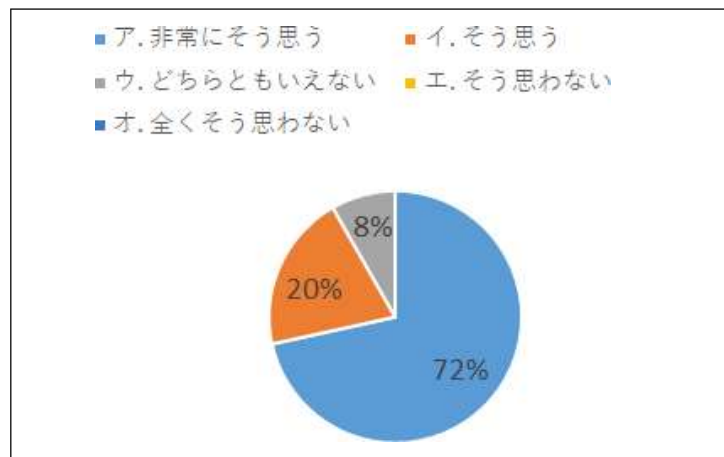
(4) 今回のプログラムの内容を評価してください。

	人数
ア. 満足	87
イ. ほぼ満足	18
ウ. 普通	2
エ. やや不満	1
オ. 不満	1
合計	109



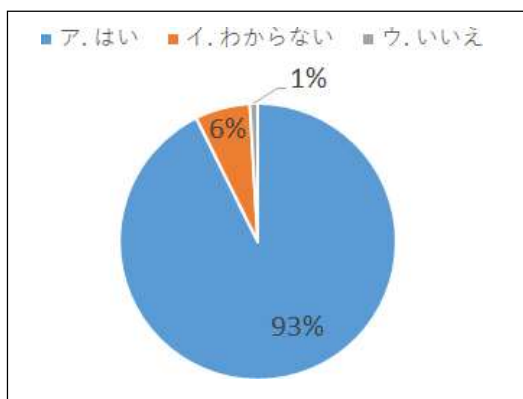
(5) オンライン同窓会への参加を機に日本への関心が高まりましたか？

	人数
ア 非常にそう思う	78
イ そう思う	22
ウ どちらともいえない	9
エ そう思わない	0
オ 全くそう思わない	0
合計	109



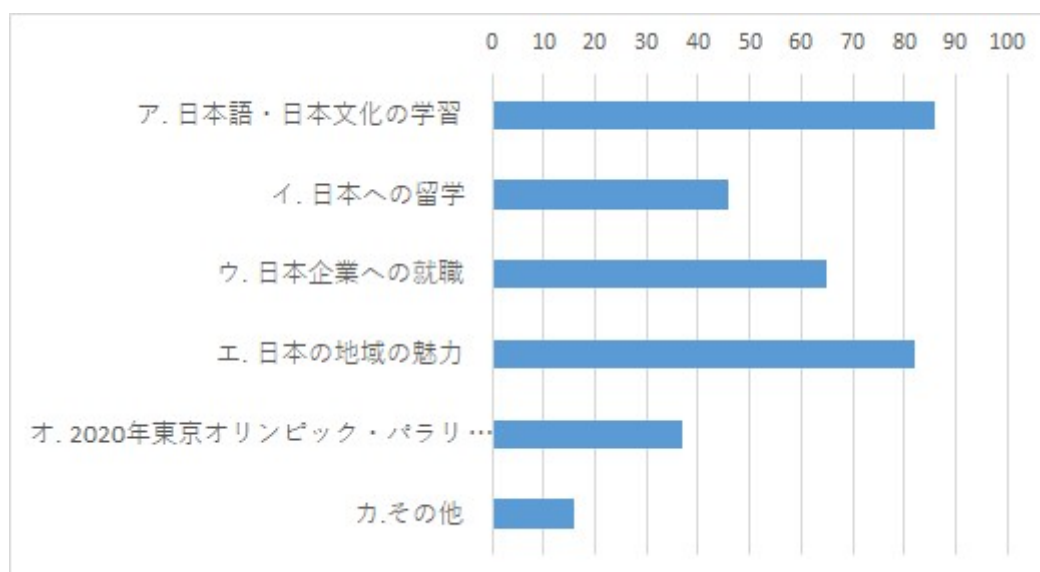
(6) また同窓会イベントに参加したいですか？

	人数
ア. はい	101
イ. 分からない	7
ウ. いいえ	1
合計	109



(7) 今後の同窓会で取り上げてほしいテーマは次のうちどれですか？（複数回答可）

	人数
ア. 日本語・日本文化の学習	86
イ. 日本への留学	46
ウ. 日本企業への就職	65
エ. 日本の地域の魅力	82
オ. 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた日本の取り組みについて	37
カ. その他	16
合計	332



4. 広報・フォローアップ業務

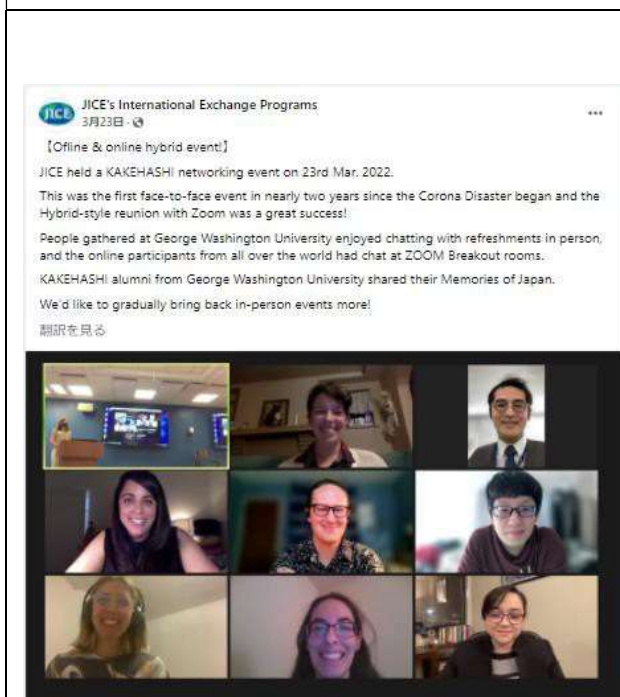
JICE 国際交流フェイスブックページにおいて、関連記事を掲載した。



招へいプログラム実施報告(フェイスブック)



派遣プログラム実施報告(フェイスブック)

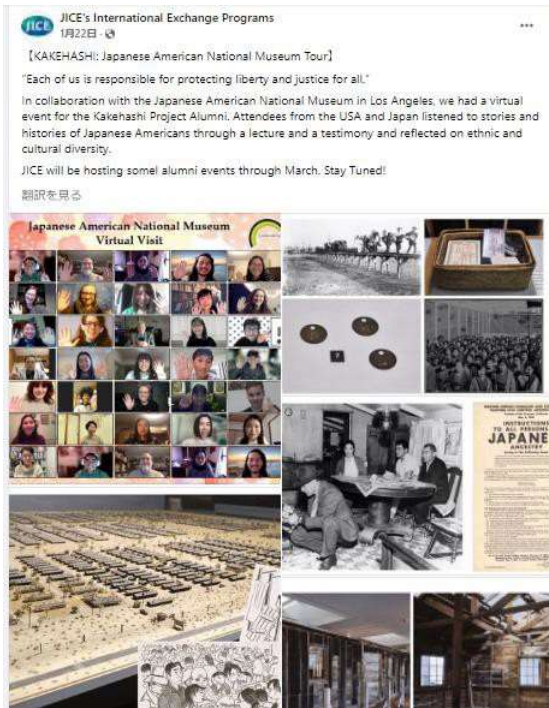


ハイブリッド形式 FU プログラム実施報告
(フェイスブック)

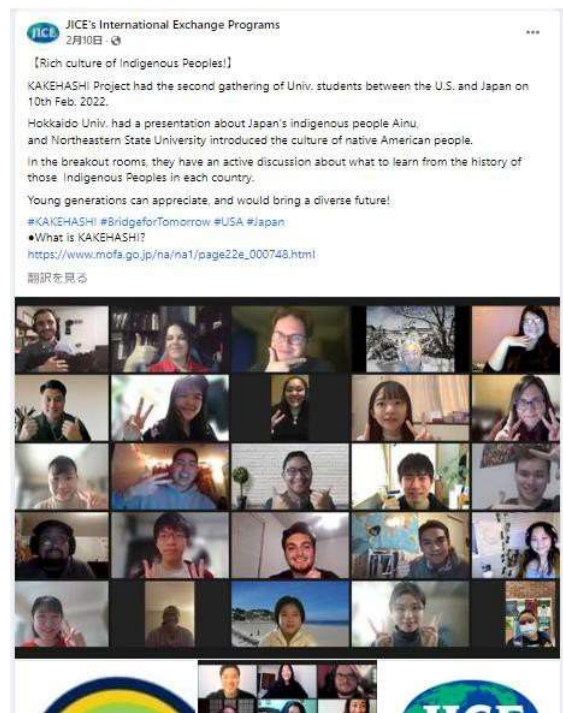


現地対面形式 FU プログラム実施報告

(フェイスブック)



FU プログラム実施報告(フェイスブック)



招へい・派遣相互交流プログラム実施報告
(フェイスブック)

以上

別紙 1 : 報道記事

別紙 2 : 参加者によるプログラム後の発信好事例

令和3年度対日理解促進交流プログラム
「カケハシ・プロジェクト」 (米国)

最終事業報告書
別紙 1. 報道記事

業務実施期間 令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

令和 4 年 5 月 31 日

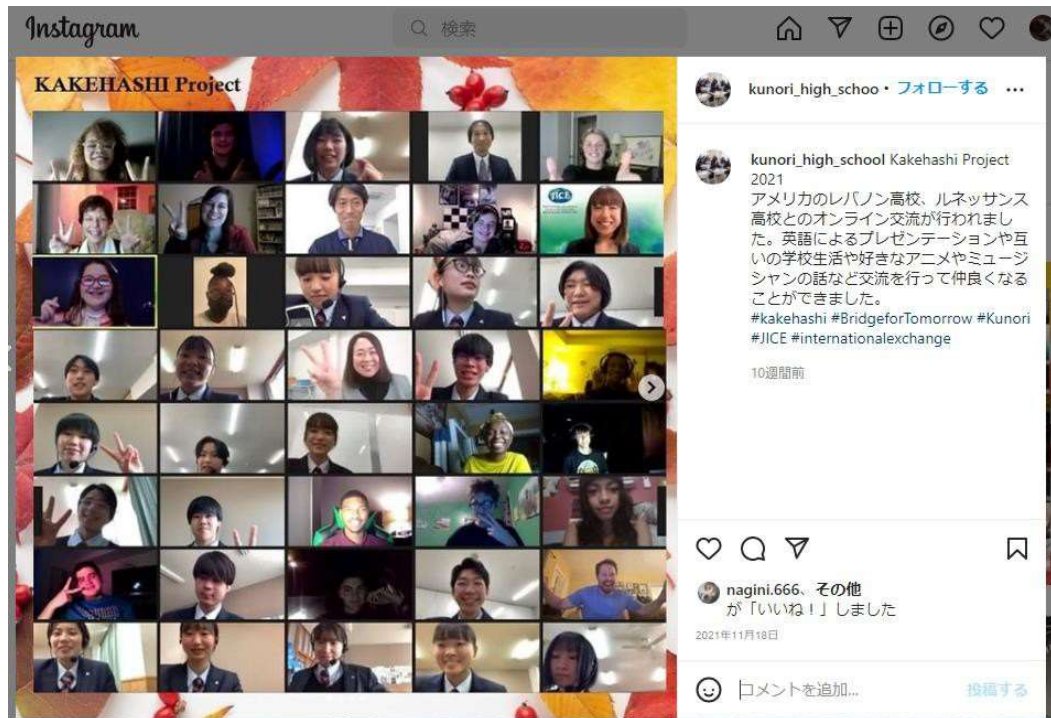
一般財団法人 日本国際協力センター

I. オンラインプログラム（招へい）

1. 高校生招へい①（テーマ：日本語・日本文化）（レバノン高校、ルネッサンス高校）（九里学園高校）	日付	2021/11/18
媒体	九里学園高校 Twitter	
タイトル	対日理解促進交流プログラム カケハシプロジェクトがスタートしました。アメリカのレバノン高校、ルネッサンス高校とのオンラインでの交流です。	
URL	https://twitter.com/kunori2/status/1461127153928441856	



2. 高校生招へい① (テーマ: 日本語・日本文化) (レバノン 高校、ルネッサンス高校) (九里学園高校)		日付	2021/11/18
媒体	九里学園高校 Instagram		
タイトル	アメリカのレバノン高校、ルネッサンス高校とのオンライン交流が行われました。		
URL	https://www.instagram.com/p/CWaA7xcPiRu/		



3. イノウエ・プログラム（ノースイースタン州立大学×北海道大学）ウポポイ		日付	2022/3/15
媒体	ウポポイ Facebook		
タイトル	【米国大学とオンライン交流】		
URL	(9) ウポポイ（民族共生象徴空間）National Ainu Museum & Park Facebook		

 **ウポポイ（民族共生象徴空間）National Ainu Museum & Park** ...
3月15日 5:30

【米国大学とオンライン交流】

3月8日（火）、外務省・対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」において、アメリカ・オクラホマ州タレクウアにメインキャンパスを持つノースイースタン州立大学（NSU）とオンラインで交流（使用言語：英語・日本語）を行いました。

国立アイヌ民族博物館の展示や一部の体験プログラムの生配信や伝統芸能の録画映像を楽しんでいた後に、ウポポイ職員とNSUの学生が小グループに分かれてディスカッションを行いました。アイヌ文化に関する質疑やそれぞれの参加者の民族共生についての考えや思いを共有する貴重な機会となりました。

外務省・対日理解促進交流プログラム
https://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/ep/page23_001476.html
 #ウポポイ #民族共生象徴空間



詳しくはこちら いいね!



121 シェア8件

いいね! コメントする シェア

II. オンラインプログラム（フォローアップ（FU））

1. 全米日系人博物館バーチャルツアー		日付	2022/1/22
媒体	日系米国人市民同盟 Facebook		
タイトル	Thank you to Japanese American National Museum for leading a virtual tour of their Common Ground exhibit for kakehashi alumni.		
URL	https://www.facebook.com/JACLNational/posts/10158062764652447		



2. おわら風の盆体験		日付	2022/3/30
媒体	北日本新聞社 HP		
タイトル	おわら 世界にPR カナダ、米国とオンライン交流		
URL	https://webun.jp/item/7838695		

富山県東部

おわら 世界にPR カナダ、米国とオンライン交流

2022.03.30 13:12



富山市八尾町の伝統行事「おわら風の盆」を世界へPRしようと、三味線、胡弓（こきゅう）奏者の舘谷美里さん（32）＝八尾町下新町＝や八尾高校郷土芸能部の部員が30日、カナダ、米国の若者約20人とオンラインで交流した。おわらの踊りや楽器演奏を披露し、富山が誇る民謡文化を発信した。



北米と環太平洋地域の交流の発展に取り組むカナダの団体「アジア・パシフィック・ファウンデーション・カナダ」が、外務省や日本国際協力センター（東京）と連携して行った。「カケハシプロジェクト」と銘打ち、2015年度から日本各地と北米との交流を進めており、県内では初開催。

富山市の旅行会社「エコロの森」が仲介役となり、舘谷さんや八尾高郷土芸能部の1、2年生11人が参加した。八尾おわら資料館を配信会場に、舘谷さんが三味線と胡弓の特徴や、「男踊り」「女踊り」「豊年踊り」の動きの由来などを説明。部員たちは風情あふれる楽器演奏と歌に乗せ、しなやかな踊りを見せた。

胡弓を担当した部長の作山大翔（はると）さん（2年）は「海外におわらの魅力を発信できてうれしい。これを励みにさらに腕を磨きたい」と語った。

交流に当たり藤井裕久市長のビデオメッセージが紹介され、在カナダ日本大使館の公使があいさつした。



3. 有松鳴海絞り体験		日付	2022/3/31
媒体	有松・鳴海絞括り 職人 大須賀彩さんブログ		
タイトル	有松鳴海絞大須賀彩の【日常彩り日記】		
URL	https://blog.goo.ne.jp/ayaosuka1218/e/43a847a578f71386965ac023b6823c85		

今回はJICEに参加されているカナダ、アメリカの方に向け、有松鳴海絞りの紹介後、アトリエ彩AyaIrodoriのバーチャルツアーを行い、家庭にあるもので絞る絞り染めレクチャーとグループディスカッションをウェブ配信で行いました。

外務省さんからのご依頼で始まったプロジェクトは前回の日本ブランド発信プロジェクトに引き続き、絞り染めを通して国際交流をさせていただき大変有意義な時間でした。

30日の前日もリハーサルが行われたウェブ配信は絞染めができるまでを主配信し目立ったトラブルもなくスムーズに進行されました。ほとんど緊張はなく、しばし和やかなムードで終了しました。

このような機会をいただき、外務省様、凸版印刷株式会社様、ありがとうございました😊

一般財団法人日本国際協力センター(JICE)さんの公式Facebookで今日の様子が公開されました。よろしければご覧ください。
https://www.facebook.com/jice.exchange?fref=nf



JICE's International Exchange Programs 10時間前

We hosted an online program for #KAKEHASHI Alumni inviting Arimatsu Narumi Shibori Artist Ms. Aya Osuka. She demonstrated the shibori techniques in her studio, "Aya Irodori" in Aichi, taught how to dye fabric and adapt to the traditional Japanese Shibori technique using items at home for fashion. There are more than one hundred types of Shibori techniques in Arimatsu Narumi! All designs are unique and become special when done by hand.

We hope that one day we will visit Arimatsu and touch

やりたかった事が次々と実現されて幸せです。本来なら海外を回れたらよかったのですが、今はできる範囲で全力で頑張りました。海外遠征は次の目標にします！

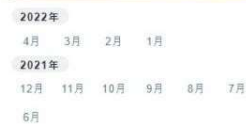
11月からあったお国からのお仕事が2つ無事に終わり今はホッと一安心です。明日から4月がスタートしますね^_^



カテゴリー

日記(74) 旅行(0) グルメ(0)

バックナンバー



人気記事



4. ジョージ・ワシントン大学 ネットワーキングイベント		日付	2022/4/1
媒体	ジョージ・ワシントン大学 Instagram		
タイトル	Last week, we were pleased to partner with the Japan International Cooperation Center (JICE) to host a #KAKEHASHI networking event!		
URL	https://www.instagram.com/p/CbOGY1nuyUC/?igshid=YmMyMTA2M2Y=		

Instagram 検索 ログイン 登録



elliotschoolgw • フォローする ...

elliotschoolgw Last week, we were pleased to partner with the Japan International Cooperation Center (JICE) to host a #KAKEHASHI networking event! Since 2018, the Elliott School has been lucky enough to be invited to participate in the KAKEHASHI Project, an exchange program that brings groups of Americans to Japan for engaging, focused and customized experiences. Students have the opportunity to attend

いいね! 233件
4月2日

ログインすると「いいね!」やコメントができます。

令和3年度対日理解促進交流プログラム
「カケハシ・プロジェクト」 (米国)

最終事業報告書

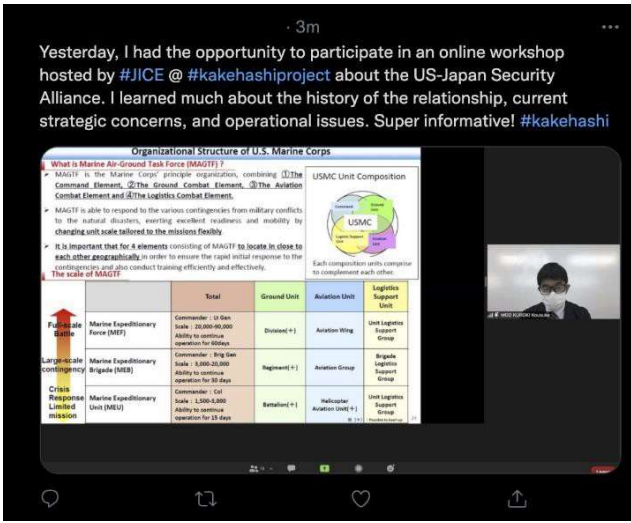
別紙 2. 参加者による発信好事例

業務実施期間 令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

令和 4 年 5 月 31 日

一般財団法人 日本国際協力センター

1. 若手研究者招へい② (防衛省講義)		日付	2021/11/4
タイトル	講義についての発信 (Facebook)		



2021 年 11 月 4 日

講義についての発信 (Twitter)

昨日、JICE 主催のカケハシ・プロジェクトにて、日米安全保障同盟に関するオンラインワークショップに参加しました。日米関係の歴史、戦略上の懸念や運用面での課題など、多くのことを学びました。情報が盛りだくさんで、勉強になりました。

2. 沖縄プログラム（那覇国際高校、知念高校×ナナクリ高校）③		日付	2021/12/14
タイトル	学校交流についての発信(参加生徒感想文 ナナクリ高校)		

Justin Kealakai

December 14th, 2021

Nanakuli High and Intermediate School

Kakehashi: The Bridge To A Brighter Future

The pandemic has affected millions of people across the world. It's taken away many opportunities from students like us, opportunities that would allow us to socialize with others and participate in things that we enjoy. The Kakehashi Project which took place on Saturday, December 4, 2021 gave select students at Nanakuli High and Intermediate School a wonderful opportunity.

My name is Justin Kealakai. I am a 3rd year Japanese student and a Junior at Nanakuli High and Intermediate school. I would like to discuss in detail the Kakehashi Project: which was an online school exchange between Naha Kokusai High school, Chinen Highschool, and Nanakuli High and Intermediate School. The event was hosted by JICE, Japan International Cooperation Center, and funded by the Japanese Bureau of Foreign Affairs and JICE.

The goal of the event was to help build relationships between Japanese and American students. Other than making friends, I would say another important part of this event was the language. This was an amazing opportunity for both the Japanese students to practice their English with native English speakers, and us to practice our Japanese with native Japanese speakers.

Leading up to the event, it was amazing to see everyone coming together for one common goal. It's not everyday you see so many kids in one room working so hard and improving all the while. Two weeks before the event everyone was scrambling, so worried about what they were going to say, what they were going to do, but even then there was never a moment any of them let their anxiety get the better of them. We spent about two weeks preparing for this event using study hall and class time to work on our Japanese as well as the topics we wanted to discuss with the Japanese students. We all started off working on our self introductions, or jikoshoukai, so we could introduce ourselves in Japanese. Introducing yourself in Japanese culture is probably one of the simplest yet most important things you could do. Next was the topics that we were to talk about in breakout rooms after the main session of the meeting. The reason for having the breakout sessions was for us teens to bond. It also gave us the opportunity to practice our language skills in a less formal environment, and that was where we ended our meetings and prepared ourselves for

the actual event.

On the day of the event, we all met up at the school library to prepare in advance. We met about two hours before the event started to practice with each other. We used each other's knowledge and experience to practice particularly difficult words, practice our presentation in Japanese, and go over the oli we wanted to do at the beginning of our presentation. After we finished with our preparation, we were all nervously sitting at our laptops waiting for the program to start.

It started with an opening statement from a JICE representative telling us their mission; which is to build relationships between Japan and other Nations that will benefit both parties. They then continued by introducing the different schools, telling us the agenda for the day, and in general doing their best to keep the program running smoothly. The schools from Okinawa: Chinen and Naha Kokusai highschool, started off with presentations about their own schools, school events, facts about their own towns, and their school clubs. The way that their school events are done are very similar but also very different from how we do things at our own school.

They have many events that feature their students doing things like class dress-up days, like our spirit week, but each class has different themes and people vote on the best costume. They even had an event where an entire grade level would learn a dance and perform it, this is similar to our homecoming dances or Ho' olaulea. It is also important to note that these events are schoolwide, unlike ours which are voluntary. What that means is all students are required to participate with either their class or grade level. This, I feel, is an amazing way to build a sense of community and family amongst students. After Chinen and Naha Kokusai highschool finished with their presentations it was time for our work to pay off. We started off strongly singing our chants for the other students, wanting to share a tiny piece of our culture with them. From there we went into our presentation which was done by Alichia Davis, Minna Budomo, Jasmine Raposa, Kevin Laronal and myself.

The first topic we went over was the Valley. We wanted to show them the things we love about Nanakuli, so we talked about the mountains, the weather, and the sea. The next part of the presentation was about the history of the Valley. It featured the story of how Nanakuli got its name which the Japanese students seemed to enjoy. To have the students feel engaged this part of the presentation was set up like a game show. This part of the presentation had both students and teachers alike enjoying themselves. The next topic was all about present day Nanakuli. It talked about our new mall, hospital, and our shops. The final topic included in our presentation was all about the beach and the sea life there. This was also interactive and we would have the Japanese students say the Hawaiian name of the

sea creatures, and that was the end of our presentation. One of our students gave a nice overview of the topics we discussed and had us go to our separate break out rooms.

In our breakout rooms we were able to have a one-on-one interaction with the other Japanese students. We settled on talking about school rules, school events, and how the pandemic affected us. Those were topics that we were given to start off the conversation and from there everyone got comfortable. Everyone began sharing their interests, talking about their daily lives, as well as sharing their passions. For many students it was really easy for them to get comfortable and find something in common with their new friends.

Before long the fun and games had to come to an end and we were all called back to the main meeting room. JICE gave a closing statement and we all said our goodbyes before leaving.

It was an amazing program full of new experiences and learning opportunities in disguise. All of the students who participated in the program really enjoyed themselves and were talking about their new friends the whole time we were together after the meeting. They were bragging about their new friends, all the things they talked about, and especially about the things they all had in common. I think it's safe to say that this is an experience that all who participated won't forget and will cherish throughout their highschool years.

2021年12月14日

学校交流についての発信(参加生徒感想文 ナナクリ高校)

カケハシ：明るい未来への架け橋

パンデミックは、世界中の何百万人もの人々に影響を及ぼしています。私たちのような学生から多くの機会が奪われ、他の人と交流したり、好きなことに参加したりする機会が失われています。2021年12月4日(土)に行われたカケハシ・プロジェクトは、ナナクリ高校・中等学校の選ばれた生徒たちに素晴らしい機会を与えてくれました。

私の名前はジャスティン・ケアラカイです。日本人の3年生で、ナナクリ高校・中級学校の3年生です。私は、那覇国際高校、知念高校、ナナクリ高校・中等学校のオンライン学校交流である「かけはしプロジェクト」について詳しく話したいと思います。このイベントは、日本国際協カセンター(JICE)が主催し、日本外務省およびJICEが資金を提供したものです。このイベントの目的は、日米の学生間の関係を構築することにあります。友達を作ること以外に、このイベントのもう一つの重要な部分は、言語だと言えるでしょう。日本人学生にとっては英語のネイティブスピーカーと英語を練習する素晴らしい機会であり、私たちにとっては日本人のネイティブスピーカーと日本語を練習する素晴らしい機会でした。このイベントに至るまで、みんながひとつの目標に向かって団結しているのを見るのは、と

ても素晴らしいことでした。これほど多くの子どもたちが一つの部屋で一生懸命に練習し、しかも上達していく様子は、そうそう見られるものではないでしょう。本番の 2 週間前、みんなは何を話そうか、何をしようかと奔走していましたが、それでも不安に駆られることはありませんでした。このイベントのために、私たちは約 2 週間、自習室や授業の時間を使って、自分の日本語と、日本人学生と話したいトピックに取り組みました。私たちはまず、日本語で自己紹介ができるように、自己紹介の練習をしました。日本文化における自己紹介は、最もシンプルでありながら、最も重要なことの一つでしょう。次に、メインセッションの後、分科会で話すトピックについてです。分科会を開く理由は、私たち 10 代の若者が絆を深めるためです。また、堅苦しくない環境で語学の練習をする機会でもあり、そこでミーティングを終え、本番に備えました。

当日は、学校の図書館に集合し、事前準備を行いました。イベント開始の 2 時間ほど前に集合し、お互いに練習をしました。お互いの知識や経験を生かして、特に難しい単語の練習や、日本語での発表の練習、発表の冒頭でやりたい内容の確認などをしました。準備が終わった後は、みんな緊張しながらノートパソコンの前に座り、プログラムが始まるのを待ちました。まず、JICE の代表者が、日本と他の国々の間に互いの利益になるような関係を構築することが使命であると述べました。そして、各校の紹介や当日のアジェンダなど、プログラムがスムーズに進行するよう、最善を尽くしてくれました。沖縄の学校、知念高校と那覇国際高校は、まず自分たちの学校について、学校行事、町の様子、学校のクラブ活動などを発表しました。学校行事のやり方は、私たちの学校と似ているようでいて、とても異なっています。例えば、スピリットウィークのようにクラスで仮装をするイベントがありますが、クラスごとにテーマがあり、投票で仮装の良し悪しを決めます。学年全体でダンスを習い、それを披露するというイベントもあり、これはホームカミングダンスやホオラウレアのようなものです。また、これらの行事は全校生徒が参加するもので、私たちの行事が任意であるのとは違うということも重要な点です。つまり、すべての生徒が自分のクラスや学年で参加することが義務づけられているのです。これは、生徒の間にコミュニティと家族の感覚を築くための素晴らしい方法だと思います。知念高校と那覇国際高校の発表が終わると、いよいよ私たちの番がやってきました。私たちはまず、他の生徒たちに自分たちの文化を少しでも伝えたいと思い、チャントを力強く歌いました。そして、Alichia Davis、Minna Budomo、Jasmine Raposa、Kevin Laronal、そして私の 5 名によるプレゼンテーションが始まりました。

最初のトピックは、谷についてです。私たちは、ナナクリの好きなところを見せようと思い、山、天気、海について話しました。

次に、溪谷の歴史について説明しました。ナナクリの歴史が紹介されました。

ナナクリの名前の由来を紹介し、日本の生徒さんにも楽しんでいただけたようです。この部分は、ゲームショーのような形で、生徒の興味を引くような演出をしました。この部分は、生徒も先生も一緒になって楽しみました。

次のトピックは、現在のナナクリについてです。新しいショッピングモール、病院、お店についてです。最後のトピックは、ビーチと海の生き物についてです。これも双方向で、日本の生徒さんに海の生き物のハワイ語の名前を言ってもらい、プレゼンは終了です。生徒の一

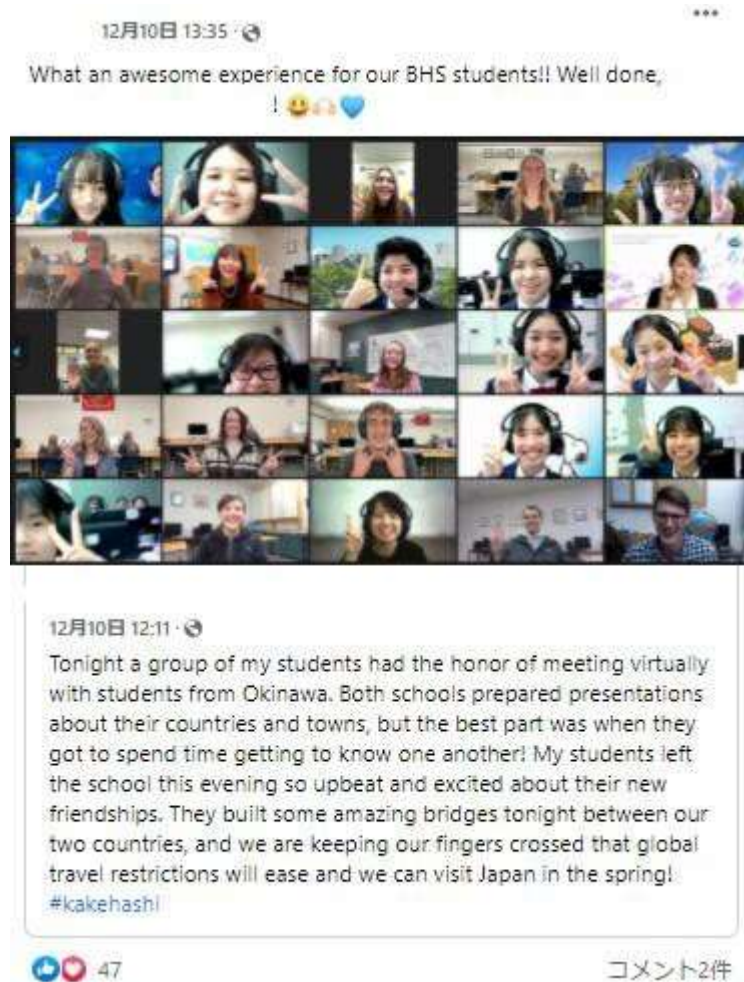
人が、今回のトピックの概要を説明し、私たちを別々のブレイクアウトルームに移動させました。

分科会では、他の日本人の生徒と 1 対 1 で交流することができました。私たちは、学校の規則、学校の行事、パンデミックの影響について話すことにしました。このような話題で会話が始まり、そこからみんなが打ち解けました。そして、自分の趣味や日常生活の話、好きなことを共有するようになりました。多くの学生にとって、新しい友人との共通点を見つけることは、とても簡単なことだったようです。

やがて、楽しいゲームも終わり、みんなはメインルームに戻されました。JICE が閉会の辞を述べ、私たちはお別れの挨拶をしました。

新しい体験と学びの機会にあふれた素晴らしいプログラムでした。参加した生徒たちは皆、本当に楽しんでいて、ミーティングが終わった後もずっと新しい友達の話をしていました。新しい友達のこと、話したこと、そして特に共通することを自慢し合っていました。この体験は、参加者全員にとって忘れられない、高校生活を送る上で大切なものになったと言っていいと思います。

3. 沖縄プログラム（球陽高校×ブロードウォーター高校、リードポイント高校）⑤		日付	2021/12/10
タイトル	学校交流についての発信 (Facebook)		

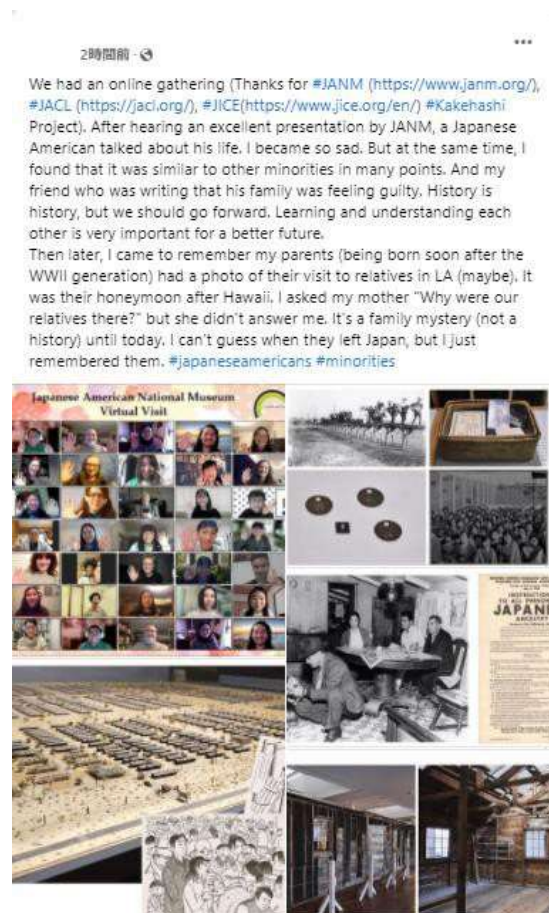


2021年12月10日

学校交流についての発信 (Facebook)

今夜、私の生徒たちは、沖縄の生徒たちとオンラインで交流しました。どちらの学校も自分の国や町についての発表を用意していましたが、一番良かったのは、お互いに知り合う時間を持てたことでした。生徒たちは、新しい友情に興奮しながら、元気に学校を後にしました。彼らは今夜、2つの国の間に素晴らしい橋を架けてくれました。世界的な渡航規制が緩和され、春に日本を訪問できることを祈っています。

4. 全米日系人博物館バーチャルツアー		日付	2022/1/22
タイトル	視察・交流についての発信 (Facebook)		



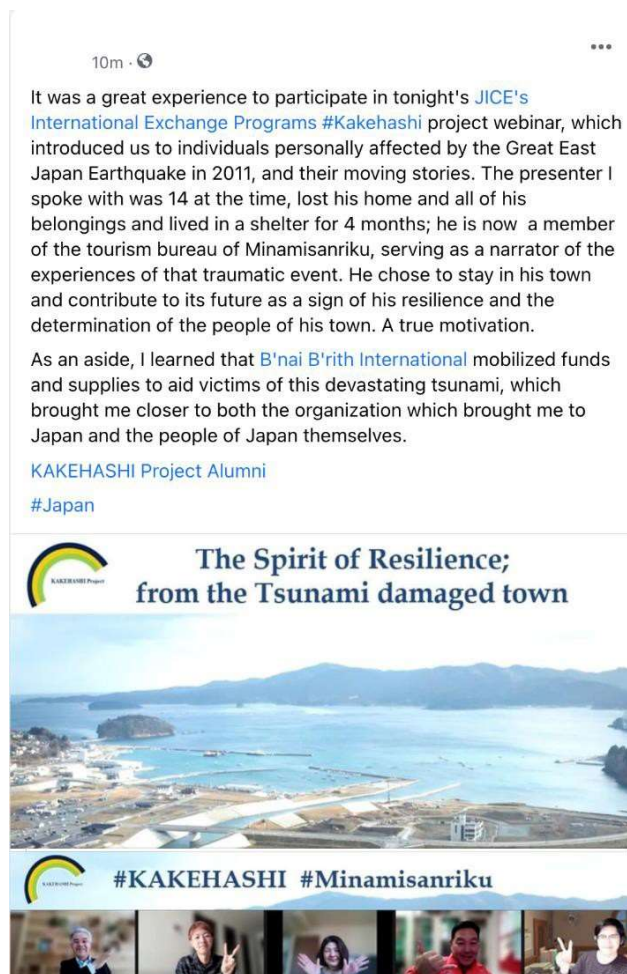
2022年1月22日

視察・交流についての発信 (Facebook)

オンライン集會が開催されました。全米日系人博物館 (JANM)、日系米国人市民同盟 (JACL)、JICE、カケハシ・プロジェクトに感謝します。JANM の素晴らしいプレゼンテーションを聞いた後、日系米国人の方がご自身の人生について話されました。私はとても悲しくなりました。でも同時に、(日系米国人の経験は) 多くの点で他の少数派と似ていることがわかりました。そして、家族が罪悪感を抱いていると書いていた私の友人とも似ていました。歴史は歴史ですが、私たちは前に進むべきです。学び合い、理解し合うことは、より良い未来のためにとっても大切なことだと思います。

その後、私の両親 (第二次世界大戦直後の世代) (日本人) が、恐らく LA の親戚を訪ねたときの写真を持っていたことを思い出しました。ハワイに続いての新婚旅行でした。私は母に「どうして親戚がそこにいたのか」と尋ねましたが、母は答えてくれませんでした。今日まで家族の謎 (歴史ではない) です。彼らがいつ日本を発ったかは推測できませんが、ただそのことを思い出しました。

5. 被災地復興ワークショップ（南三陸）		日付	2022/1/26
タイトル	視察・交流についての発信（Facebook）		



2022 年 1 月 26 日

視察・交流についての発信（Facebook）

日本国際協力センターの国際交流事業のウェビナー、カケハシ・オンライン同窓会に今夜参加し、とても素晴らしい経験となりました。2011 年の東日本大震災の被災者から心を動かされる体験談を聞くことができました。私が話を聞いた方は当時 14 歳で、家と持ち物を全て流され 4 ヶ月間避難所で過ごしました。現在は南三陸町の観光協会で被災体験の語り部を務めています。町に留まり、自身の心の強さと町民の復興への決意の証として町の将来のために尽くすことにしたのです。正真正銘の動機です。

ところで、” B’ nai B’ rith International”（ユダヤ人国際団体）が募金や寄付を募り、この酷い津波の被災者を支援したということを知りました。このことから団体に関わるようになり日本を訪れる機会を得、日本の方々と交流するようになったのです

6. 浮世絵工房バーチャルツアー		日付	2022/2/4
タイトル	視察・交流についての発信 (Facebook)		

2h · 🌐

(日本語は下に付きます。 / Japanese attached below.)

[#KAKEHASHI](#) [#ukiyo-e](#) [#JapaneseArt](#) JICE's International Exchange Programs

I am very delighted to participate another online cultural event by JICE, which is a discussion session about Ukiyo-e—one of the most well-known Japanese art genres originated from Edo Period. Our main speaker Ms. Takahashi has given us a detailed introduction about how this type of expression was formed, as well as how it influenced our society at the time and afterwards. I was really triggered by the point of Ukiyo-e was not considered art but a form of information in the past, and it is more about reading than seeing. Although it carries more historical, cultural and artistic values nowadays, it is still quite inspiring to see how it transformed from a way of passing information to what we perceive as art or expression today. We also had the opportunity to share our observations on a famous ukiyo-e work, Night View of Saruwaka-machi from One Hundred Famous Views of Edo, as separated groups. This brought even more interesting opinions since the participants all come from different cultures or places.

I really appreciate that I can take part in this event, and hopefully I will be able to visit Japan soon and “read” these amazing ukiyo-e works in person. Thank you all! 🍀

2022年2月4日

視察・交流についての発信 (Facebook)

日本国際協力センターから再び招待され、浮世絵に関するオンラインセミナーに参加できて良かったと思います。浮世絵は世界的に知られている日本の芸術の形の一つであり、江戸時代から広く普及してきました。主な講演者の高橋さんは、浮世絵の歴史や発展、そして、浮世絵と社会との結びつきについて、いろいろと紹介してくれました。「かつて浮世絵は芸術ではなく、情報伝達の一つと捉えられていた」と聞き、浮世絵は見るというより、読むと言う方が適切であることなど、このような観点は私にとって、とても興味をそそるものでした。むろん今の浮世絵は、江戸時代に比べると、歴史的、文化的、芸術的な価値がいっそう溢れています。今までの発展や意義、芸術への影響、表現の変化などは、やはり私たちの文化にとって意味が深いのではないのでしょうか。その上、私たちも、有名な浮世絵作品「名所江戸百景 猿わか町よるの景」を鑑賞し、様々な意見をグループでシェアしました。皆さんの異なる文化や地域の視点から、面白いアイデアと考えでいっぱいでした。今日は、本当にこのイベントに参加して良かったです。将来、日本へ来て、実際に浮世絵の作品を「読む」ことを楽しみにしております。ありがとうございました。

7. イノウエ・プログラム（ノースイースタン州立大学×北海道大学）②		日付	2022/2/10
タイトル	学校交流についての発信（Facebook）		



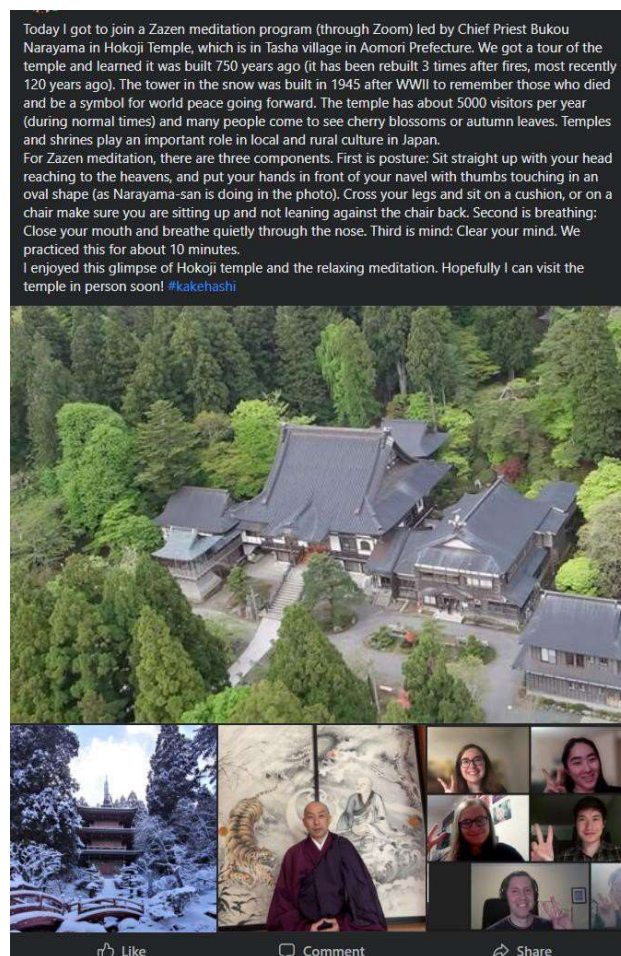
2022年2月10日

学校交流についての発信（Facebook）

カケハシ・プロジェクト 2022 に参加させていただき、とても光栄です。私たちは、北米先住民とアイヌ民族の文化について学びました。アイヌ民族の歴史、植民地化と同化の時期、政策、伝統的な食べ物などを知ることができ、興味深かったです。一方、北米先住民の文化、チェロキー、マスコギの伝統料理やオサフケなどの料理、栄養価の高い食べ物について、両方から学ぶことができました。人の移動は、文化も運んでくるということを実感しました。食や文化に影響を与えます。だから、違いや共通点も見えてくるのです。

このワークショップのもうひとつの力強いメッセージは、伝統と遺産を維持し、他者を尊重することです。世界は色彩に満ちています。だから、橋渡しとつながりを作りましょう。JICE の国際交流プログラムの皆さん、このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

8. 法光寺 お寺ツアー・座禅体験		日付	2022/3/8
タイトル	講義についての発信 (Facebook)		



2022 年 3 月 8 日

講義についての発信 (Facebook)

今日は青森県達者村にある法光寺の檀山武浩住職が率いる座禅体験 (Zoom) に参加しました。見学を通してお寺が 750 年前に建てられたことを知りました。(お寺は火災で 3 度焼失、最近では 120 年前に再建されました。) 雪景色の中で見た承陽塔は、戦争で命を落とした人々を思い、これから先の世界平和の象徴として第二次世界大戦後の 1945 年に建てられました。年間約 5000 人の来場者があり(平時)、多くの方が桜や紅葉を見に来ます。神殿や神社は、日本の地方や地方の文化において重要な役割を果たしています。以下は座禅の 3 つの要素です。1 つ目は姿勢です。頭を天に向けてまっすぐに座り、親指を楕円形にした状態でおへその前に手を置きます(写真の中で檀山さんが行っているように)。クッションに座るか、椅子に座って足を組みます。椅子の後ろにもたれかかっていることを確認してください。2 つ目は呼吸です。口を閉じて、鼻から静かに呼吸します。3 番目は心です。あなたの心を空にします。これを約 10 分間行います。法光寺を垣間見ることができ、リラックスした瞑想を楽しみました。近いうちに直接お寺に行けたらいいなと思います！

9. ジャパン・ソサエティー ギャラリーツアー・同窓会		日付	2022/4/10
タイトル	視察・交流についての発信 (Instagram)		



2022年4月10日

視察・交流についての発信 (Instagram)

同窓生向けのイベントに参加できることに心から感謝しています。棟方志功のギャラリー「A Way of Seeing」は綺麗で感動しました。素敵な絵を見せてくださったジャパン・ソサエティーとカケハシ・プロジェクト、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願ひします

I am truly grateful to be able to attend this alumni event. Shiko Munakata's gallery "A Way of Seeing" was beautiful and moving. Thank you so much to Japan Society and Kakehashi Project for showing us the wonderful paintings. Please keep up the good work!

10. 大阪の魅力発見バーチャルツアー		日付	2022/3/15
タイトル	視察・交流についての発信 (Facebook)		

#kakehashi

This evening I had the chance to attend an online presentation called "Discover Osaka, Kansai" hosted by JICE. I learned a lot about the Osaka region such as the Katsuoji Temple with the Daruma (which is a symbol of victory), the Midouji Street Illumination (which happens in Winter), and the Cup Noodle Factory!

It was a lot of fun to participate and learn about Japan, which I haven't been able to do since back in 2017 during my Kakehashi Program in Fukushima.

Here are photos of the event: 1. A group photo that I couldn't participate in due to a faulty webcam, and 2. The result of my group's attempt to throw together a poster with the screenshots we took of the presentation in a limited time-frame, chaotic but fun.

[翻訳を見る](#)



2022年3月15日 (Facebook)

視察・交流についての発信 (Facebook)

今日夕方、私は JICE 主催の「大阪・関西発見！」というオンラインプログラムに参加しました。勝利の象徴である「だるま」を飾る勝尾寺、冬の御堂筋のイルミネーション、カップヌードルファクトリーなど多くのことを学びました。私は 2017 年のカケハシで福島へ参加して以来、できていなかった日本についての学びが出来てとても楽しかったです。2 枚の写真のうち、1 枚目は私のカメラの不調で参加できなかった集合写真、2 枚目はグループワークで作成したポスターです。プレゼンテーション中に撮ったスクリーンショットを張り付けて限られた時間のなかで作成しました。大変でしたが楽しかったです。

11. 大須商店街バーチャルツアー		日付	2022/3/17
タイトル	視察・交流についての発信 (Facebook)		



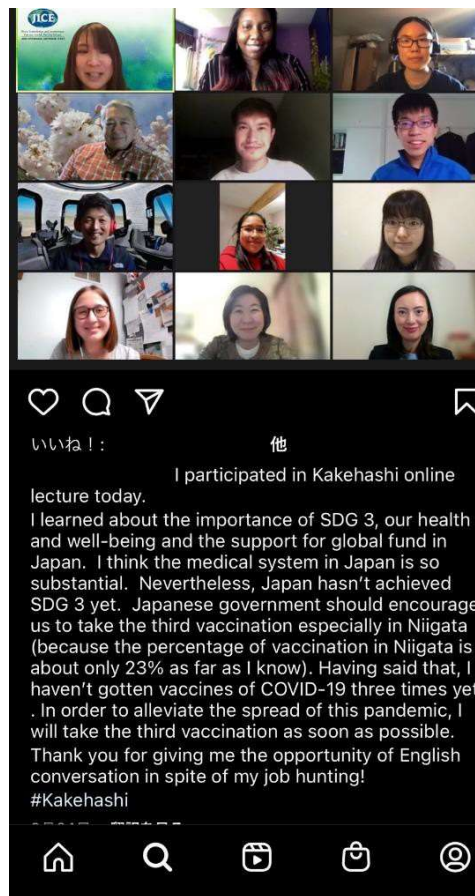
2022年3月17日

視察・交流についての発信 (Facebook)

私の名前をカタカナと漢字で美しい書にしてもらったのでシェアします！名古屋の大須商店街のバーチャルツアーの後に、日本の JICE スタッフが書いてくれました。クイズに答えるのも本当に楽しかったです！近い将来、名古屋に行きたいです。素晴らしいプログラム、本当にありがとうございました！素晴らしいイベントに参加させていただき、ありがとうございました。この素敵な贈り物を大切にします。 2021年9月25日
学校交流についての発信 (Facebook)

私は中央フロリダ大学の CATER 研究室の一員としてカケハシ・プロジェクトに参加していますが、先日 JICE 主催のセッションに出席しました。日本とグアムの大学について、気候変動に絡めて学ぶことができました。例えば、日本では自転車に乗るのが一般的で、米国ではエアコンを使うのが一般的であるなど、国によって二酸化炭素の排出方法に違いがあることがわかりました。今後のセッションに参加することをとても楽しみにしていますし、このプロジェクトに参加できたことをとても光栄に思います。

12. 日本国際交流センター（JCIE）ウェビナー		日付	2022/3/24
タイトル	交流についての発信（Instagram）（日本の参加者による英文投稿）		



2022年3月24日

交流についての発信（Instagram）（日本の参加者による英文投稿）

今日、カケハシ・プロジェクトに参加しました。

SDGsの重要性、私たちの健康と福祉について、また日本でのグローバルファンドへの支援について学びました。日本の医療制度はとても充実していると思います。それでも、日本はまだSDGsを達成していません。日本政府は、特に新潟での3回目のワクチン接種を奨励すべきです（私の知る限り、新潟のワクチン接種率は23%程度です）。とはいえ、私もまだ新型コロナウイルス感染症のワクチンを3回接種していません。新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために、できるだけ早く3回目の接種を受けようと思っています。就職活動中でしたが、英会話の機会を与えていただき、ありがとうございました。

13. 有松鳴海絞り体験		日付	2022/4/1
タイトル	視察・体験についての発信 (Twitter)		

Thanks to hosts at JICE and Osuka Aya Sensei from Aya Irodori Studio in Aichi, #Japan for last night's #Kakehashi Project alumni event spotlighting Arimatsu Narumi Shibori Japanese traditional tie-dye techniques. A great chance to appreciate such beautiful and elegant designs!



Japan Embassy Canada



2022年4月1日

視察・体験についての発信 (Twitter)

日本の伝統的絞り技法である有松鳴海絞りに焦点を当てた昨晚のカケハシ同窓生プログラムのホスト JICE と彩 Aya Irodori の大須賀彩先生に感謝です。とても美しく優雅なデザインに触れる素晴らしい機会でした！